
『おどる』

野脇幸菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『おどる』

【Nコード】

N0045F

【作者名】

野脇幸菜

【あらすじ】

勉強していても、いつも集中できない日常のある日のこと。

（前書き）

ほんのちよつと気持ち悪いかも。

漢字が思い出せない。

『おどる』どという字だっただろうか。

思い出せない。

でも初めて見たときに頭にスツと入って来ない字体だった。

踊っているような軽やかな字体じゃなく固苦しい字だったから。

今でも書くときに思い出せない事が多い。

手が止まってしまった。

部屋で何の音もしない。

キーンという音がし始めた。

耳鳴りだ。

他の問題に移るか辞書で調べるかすればいいのに、面倒くさいのか、自分で思い出したいだけなのか、次の問題を解く気がないだけなのかわからない。

耳鳴りがまだ続いている。

耳の奥で何かカサカサという音が聞こえた。

耳を澄ませる。

耳の奥からではなく部屋のどこかで微かな音が聞こえるようだ。

この部屋に何か生物でもいるらしい。

今度は音の位置を見極めながらそこを目で追う。

カーテンだ。

目を凝らすと黒い生物がいる。

近づいてみた。

黒い太ったハエだ。

ギンバエだか何だかは知らないが一般的にいるハエ。

窓と遮光カーテンの間で上下を行き来している。

カーテンを抜け出す出口を探しているようだ。

見つけてもらっては困る。

これ以上羽音を鳴らせて部屋を飛び回ってもらってはうるさくてかなわない。

カーテンの上から潰してやる。

雑誌を持ってハエを探すといない。

部屋を飛び回っている。

ブーンブーンと嫌な音を振りまきながら。

ハエの通り道を遮ると手前で進路を変えていく。

でも何だかおかしい。

今まで観察してきた迷い込んだ迷惑な蚊やハエは、

必ず部屋を何周かしてはどこかに止まって休んでいたのに

コイツは止まらない。

優雅に飛んでいるわけではなく高速で飛び回っている。

時々壁にスピードを緩めずにぶつかっている。

いや、自分から突進しているように見える。

その繰り返し。

もうわかったから止めてくれ。

入ってきたドアから逃げていつてくれ。

そう願いながら奴を観察していた。

もう五分は経っている。

しばらくするともう飛び回ることに疲れたのか

机の上にじっとして止まっている。

身繕いをするでもなく針で縛られている剥製された虫のように動かない。

持っていた雑誌で叩き潰してやった。

ベタツとした格好で死んでいる。
やっと終わった。
もう邪魔されないうすむ。

私はティッシュを持ってハエを掴もうとした。
この瞬間は大嫌いだ。

甲殻の硬さや感触が手の指に伝わって気持ち悪い。

掴もうとすると何か目の中で

白いものが動いているように見える。

最初は目が疲れてかすんでいるのかと思ったが

白い3ミリほどの物体がいくつも飛び散っている。

潰したときに出た汁かとも思ったが

どう見ても少し動いているのである。

黒い目のようなものも付いている。

それをじつと確かめた。

戦争映画に出てくるような黄色いものではなかったが、
うじうじうじうじうじうじと

母親の腹の中から机の上にはい出ようとしていた。

卵を生む場所を選びすぎて奴の予定よりも早くお腹の中で生まれた
のか、

自分の体を我が子の栄養のために犠牲にしようとしたのかは
私にはわからない。

母親と理解しているのかわからないウジ達がどんどん出て来る。
その光景は吐き出しそうになるくらい気持ち悪く、
これから自分の机の上に広がっていくのかと思うと
放っておくわけにはいかなかった。
潰した母バエをティッシュに包んでガムテープで巻き、

残っている数匹のウジをティッシュで潰してゴミ箱に捨てた。

部屋は元の静かな状態に戻った。

耳鳴りもいつの間にか消えた。

でも、自分の心はかき乱されて平静な状態に戻ることはできなかった。

（後書き）

奥があるような無いようなそんな話だと思っ
てもらえたなら嬉しいです。
気持ち悪いと思っ
た方ごめんなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0045f/>

『おどる』

2010年10月11日20時12分発行